

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

生徒会が企画して全学年が出場する部活動対抗リレーを昼休みの時間を活用して実施した。本イベントの目的は、速さを競って勝敗を決めることではなく、各部活動がバトンを工夫するなど個性あるリレーを披露し、出場した生徒と見学した生徒が共に楽しみながら全学年のきずなを育むことである。

生徒会が中心となり、企画から運営まで責任をもって取り組むことができた。授業では得られない経験を通じて、1年生から3年生までの生徒が互いに交流し、教職員との信頼関係も深まった。また、企画から当日に向けての準備、司会進行や運営のサポートなど様々な場面において、それぞれの生徒に適した役割を与えることで、一人一人がもつ個性や特技を生かしながら活躍できる貴重な機会となった。このような取組を今後も継続的に実施することを検討している。



【取組2】(A中学校)

体育の授業におけるソフトボールの単元では、状況に応じたプレーについて班ごと話し合い、生徒同士で教え合う活動を継続的に行った。また、各授業の途中と終わりには振り返りの時間を設け、プレーの改善点や成果を共有している。

これにより、生徒が自分の役割に責任をもって取り組むとともに自己有用感を高め、主体的な学習態度の育成につながった。

【取組3】(A中学校)

教職員の専門性の向上と生徒への適切な支援体制の構築を目的として、初任者や若手教員を対象とした不登校対応に関する校内研修を実施した。

この研修により、教員が不登校に関心をもち、不登校への理解を深めるとともに、研修後は各学年で生徒の様子や気になる変化を共有する体制を整備した。この結果、欠席がちな生徒への支援が充実し、不登校の未然防止に効果的に取り組むことができるようになった。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（B中学校）

校長、SC、SSW、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、不登校対応巡回教員、生活指導主任が参加する支援会議を定期的で開催した。様子が気になる各学年の生徒の状況や必要と考えられる合理的配慮について意見交換・情報共有を行うことで、多職種連携による効果的な生徒への支援を実現している。

アウトリーチによる支援（C中学校）

不登校対応巡回教員による不登校傾向の生徒への家庭訪問を実施し、配布物を渡す際に、生徒に直接会うことで信頼関係づくりを進めた。電話では把握できない生徒の変化を理解し、個別支援方針を再検討できた。今後、定期的な家庭訪問により信頼関係の一層の構築を図る。

校内別室における支援（A中学校）

生徒が登校時に1日の学習予定を自身で作り、下校時に取組状況を振り返り、プリントに記入する。そのプリントを支援員と担任が共有しながらコメントのやりとりを行い、生徒へ継続的に関わっている。また、学校行事への参加の際については、当該生徒の意思を尊重しながら支援員が同行して支援したり、日常の学習指導では各教科の教員も別室で個別指導を行い学習内容の定着を図ったりするなど、生徒一人一人の状況に合わせた支援の充実を図っている。



デジタル機器を活用した支援（B中学校）

欠席生徒や校内別室を利用する生徒に対して各教室にオンライン配信用の端末を配置し、状況に応じて授業をオンラインで配信している。

生徒が授業に参加し、学習に遅れて不安になることなく学びを継続できるよう支援している。

関係機関との連携（B中学校）

SCによる教職員、保護者向け研修を実施した。不登校生徒への対応や関わり方などの実践的内容を取り上げることで、教職員の専門性の向上を図っている。

また、SC、SSWとの情報共有により、個々の生徒の状況について支援方法等の検討を行っている。

成果

教員と校内別室指導支援員が共通理解のもと迅速に対応した結果、欠席が続く生徒が校内別室に登校できるようになった。学校行事への参加を通じて、教室に復帰できた生徒もいた。

課題

生徒への支援を継続するため、利用者増加に応じた校内別室の更なる整備や、関係者間の情報共有の機会を確保していく。